

# 「初めてのスポーツ体験イベント」

スポーツ庁×UNIVAS委託事業 令和4年度

「大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出事業」における  
愛知東邦大学の取り組み

令和5年1月

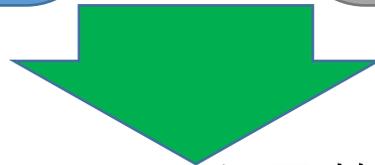
# 目次

1. 事業趣旨・目的
2. 実施計画
  - ① 課題・ねらい
  - ② 自治体及び地域の組織・団体との連携・協力体制
  - ③ 事業実施方法
3. 実績
  - ① スポーツチャレンジフェスティバル
    - i. 藤が丘小学校
    - ii. 極楽小学校
    - iii. 平和が丘小学校
  - ② 調査
  - ③ 地域専門委員会・専門委員会
4. 総括

# 1. 事業趣旨・目的

成人のスポーツ習慣と、小学生時に運動を楽しんでいたことには強い相関（体力・運動能力調査）  
→「幼少期のスポーツ習慣化」の重要性

コロナ禍もあり、子供がスポーツに興味をもち、スポーツを始めるための「初めてのスポーツ体験」の機会が減少



- 小学生のスポーツ習慣化に寄与することを目的として「初めてのスポーツ体験イベント」事業を展開
  - 特定のスポーツ教室やクラブに所属することなく、複数のスポーツを体験することができる機会を大学と地域で提供
  - 子供の体験と同時に、「子供のスポーツ習慣化」に寄与する「親のスポーツ・健康への関心の醸成」を目的とした情報提供の実施

# (参考) 愛知東邦大学の地域への取り組み

- 本学所在の名古屋市名東区と、平成27年に連携協定を締結
  - 名東区民まつり「平和の丘 春まつり」を愛知東邦大学・東邦高等学校で、令和元年度まで10年以上開催
  - 名東区民ミーティングを平成29年度から令和元年度まで本学にて開催
  - ドッジボール大会を名東区体育協会との連携により平成25年から令和元年度まで毎年実施
- 地域スポーツクラブの運営
  - 体操、女子サッカー、ヨガ、太極拳、座ったまま運動
- TOHO Marching Academy
  - 近隣の小中学校へマーチング・吹奏楽の部活動支援



## 2. 実施計画

### ① 課題・ねらい

- 本学の所在する名古屋市名東区（人口16万人）は、14歳以下の人口比率が高く、「子供のスポーツ習慣化」への対応が必要
- 行動変容ステージモデルにおける「無関心期」→「関心期」、「関心期」→「準備期」に着目
  - 「スポーツに興味を持たせる（無関心期→関心期）」
  - 「またスポーツしたいと思わせる（→準備期）」
  - 特定のスポーツ教室やクラブの場合は、先に種目の選択→興味を持ったものを複数体験できる場の提供
- 本学学生が運営スタッフへ参画することで地域の負担軽減
  - 学生が地域や子どもと接することでの「気づき・学び」の機会提供
- 親の行動を促すためのプログラム構成の工夫
  - スポーツ・健康に関して親の関心を惹くようなコンテンツ

## 2. 実施計画

### ② 自治体及び地域の組織・団体と連携・協力体制

- 名古屋市名東区
  - 課題共有、会議体委員、事業運営の後方支援
- 名東区体育協会、名東区スポーツ推進委員連絡協議会
  - 課題共有、企画検討、事業運営の地域面の協働、会議体委員
- 会議体
  - 運営委員会（イベント当日の運営スタッフ会議）
    - 地域スタッフ（人選は各学区連絡協議会に依頼）・学生スタッフ
  - 地域専門委員会（今年度各該当学区事業・調査分析報告並びに総括・本事業の次年度展開についての検討）
    - 学区区政協力委員長、小学校校長、小学校PTA会長、学区スポーツ推進委員、名東区体育協会副会長・本学教員2名
  - 専門委員会（今年度全事業・調査分析報告並びに総括・本事業の名東区全体への次年度展開についての検討）
    - 名古屋市、名古屋市教育委員会、(公財)愛知県スポーツ協会、名東区区政部地域力推進室、名東区小中学校校長会、名東区PTA協議会、名東区区政協力委員協議会、名東区スポーツ推進委員連絡協議会、名東区体育協会、本学教員2名

## 2. 実施計画

### ③ 事業実施方法

- 地域との協働
- 内容の工夫
  - 無関心期・関心期の子どもも参加しやすい環境づくり
    - 遊びの要素（射撃、ストラックアウト等）をきっかけに未体験のスポーツへの興味惹起（ラインナップ充実）
  - 関心期・準備期・実行期の子どもが更に行動変容ステージを進められるきっかけづくり
    - 経験者の大学生やインストラクターによる指導やデモンストレーション（本物に触れる機会の提供）
  - 行動変容ステージを進めやすくするための配慮
    - 成功体験や楽しさを感じやすい内容
    - 学生スタッフに子どもの自己肯定感を高められるような事前講習
- アンケートの実施
  - 地域の行動変容ステージ把握
  - 子どもの行動変容の傾向把握、きっかけとなる親の子どもへのスポーツ機会提供

# 3. 実績

## ① スポーツチャレンジフェスティバル

### I. 藤が丘小学校学区

- 令和4年10月16日（日） 午前の部9時～11時、午後の部12時～14時
- 天候：晴れ、気温：27度
- 場所：名古屋市立藤が丘小学校
- 参加者（学区内児童と家族）：午前143名、午後181名、計324名
- アクティビティ：30mダッシュ（初速・中速・終速計測）・モルック・スラックライン・ストラックアウト・バッティングチャレンジ・スイングスピード測定・シュートチャレンジ・フライングディスク・キックターゲット・シャッフルボード・カロリーニング・三角馬と竹馬・射撃・体力測定・大人向け計測（骨密度・脳年齢等）
- 主催：学校法人東邦学園愛知東邦大学
- 共催：名東区体育協会、名東区スポーツ推進委員連絡協議会、藤が丘学区連絡協議会

# 3. 実績

## ① スポーツチャレンジフェスティバル

### I. 藤が丘小学校学区



30mダッシュ



ストラックアウト



キックターゲット



射撃



カローリングとシャッフルボード



大人向け測定（骨密度）

# 3. 実績

## ① スポーツチャレンジフェスティバル

### II. 極楽小学校学区

- 令和4年11月20日（日） 午前の部9時～11時、午後の部12時～14時
- 天候：曇り（直前まで雨予報のため室内のアクティビティへ変更）、  
気温：18度
- 場所：名古屋市立極楽小学校
- 参加者（学区内児童と家族）：午前78名、午後115名、計193名
- アクティビティ：モルック・スラックライン・ボール投げ・スイングスピード測定・ナインゴール・シャッフルボード・カローリング・ゴールボール・三角馬と竹馬・射撃・体力測定・大人向け計測（骨密度・脳年齢等）
- 主催：学校法人東邦学園愛知東邦大学
- 共催：名東区体育協会、名東区スポーツ推進委員連絡協議会、極楽学区連絡協議会

# 3. 実績

## ① スポーツチャレンジフェスティバル

### II. 極楽小学校学区



ゴールボール



ナインボール



スラックライン



三角馬・竹馬



スイングスピード測定



測定（長座体前屈）

# 3. 実績

## ① スポーツチャレンジフェスティバル

### Ⅲ. 平和が丘小学校学区

- 令和4年12月11日（日） 午前の部9時～11時、午後の部12時～14時
- 天候：曇りのち晴れ、気温：15度（寒さ対策で室内中心のアクティビティへ変更）
- 場所：名古屋市立平和が丘小学校
- 参加者（学区内児童と家族）：午前71名、午後101名、計172名
- アクティビティ：30mダッシュ（初速・中速・終速計測）・モルック・スラックライン・フライングディスク・ドッジボール・サッカーチャレンジ・ミニストラックアウト・ナインゴール・シャッフルボード・カロリング・三角馬と竹馬・射撃・体力測定・大人向け計測（骨密度・脳年齢等）
  - サッカー、ドッジボール、スラックラインのデモンストレーション実施
- 主催：学校法人東邦学園愛知東邦大学
- 共催：名東区体育協会、名東区スポーツ推進委員連絡協議会、平和が丘学区連絡協議会

# 3. 実績

## ① スポーツチャレンジフェスティバル

### Ⅲ. 平和が丘小学校学区



ドッジボール球速測定



スラックラインデモンストレーション



モルック



フライングディスク



測定（垂直跳び）



大人向け測定（脳年齢）

# 3. 実績

## ① スポーツチャレンジフェスティバル

※ 実施に当たっての工夫： イベント内企画

### (1) スタンプラリー

小学生以下 スタンプ5個以上で参加賞（賞品は共催の各学区連絡協議会提供）

### (2) お楽しみ企画

重さ当て 全員参加（賞品は共催の各学区連絡協議会提供）

- 藤が丘（10月）： ハロウィン企画「かぼちゃの重さ当て」
  - 極楽（11月）： オータム企画「どんぐりの重さ当て」
  - 平和が丘（12月）： クリスマス企画「クリスマスぬいぐるみの重さ当て」
- アンケート回答者へはヒントを提示することで、調査への協力も誘導



参加カード（おもて）



参加カード（うら）



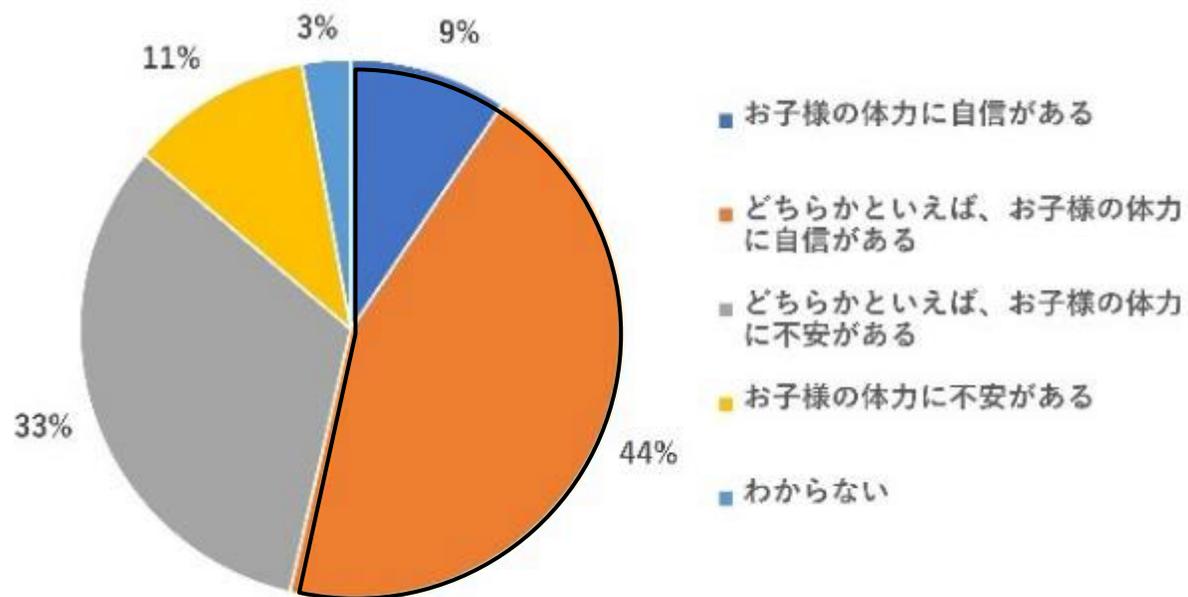
かぼちゃの重さ当て

# 3. 実績

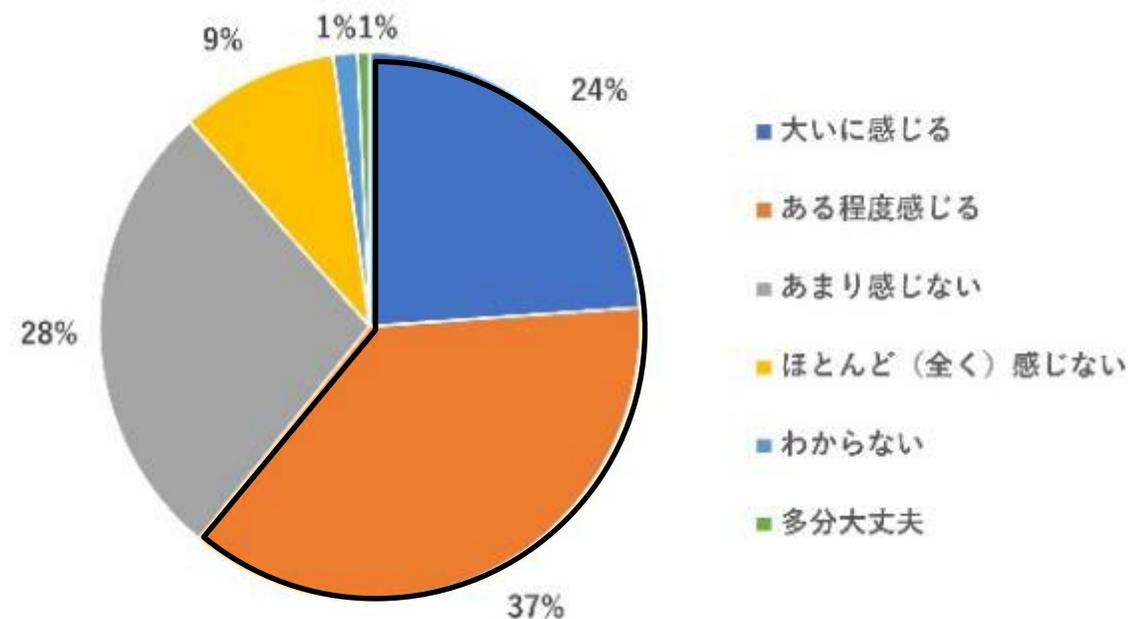
## ② 調査（抄）

### 1. 子どもの体力・運動不足の意識

#### ● 子どもの体力に自信があるか



#### ● 子どもが運動不足と感じるか



● 半数以上が自信がある／どちらかといえば自信がある

● 6割以上が子どもの運動不足を感じている

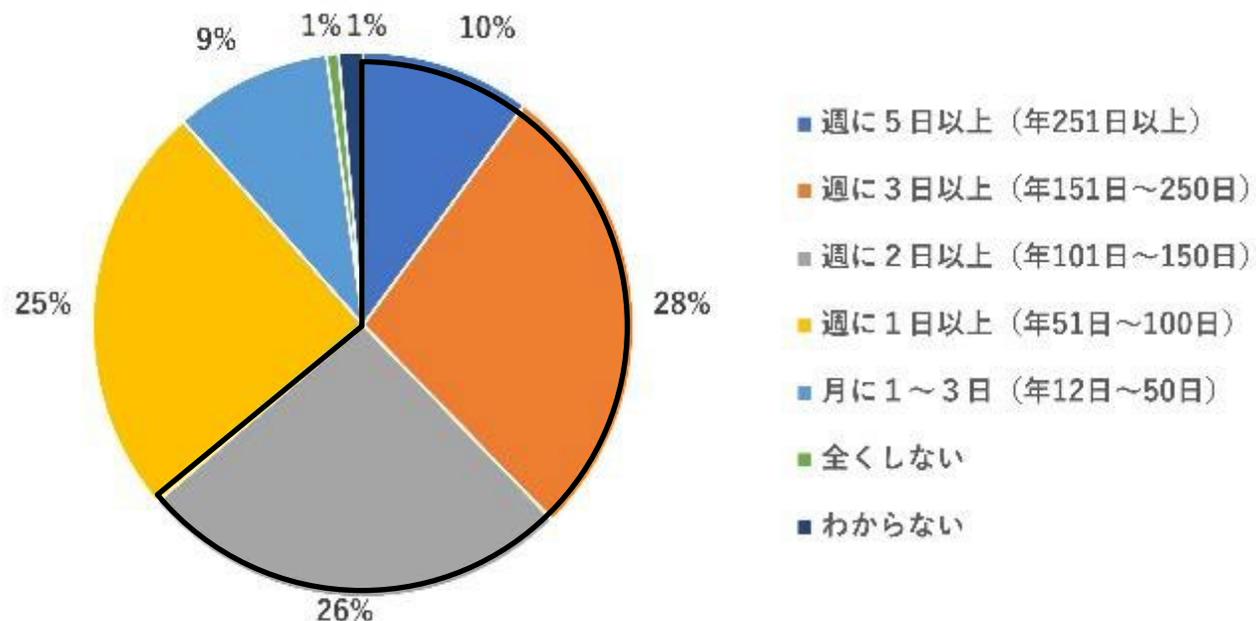
- 親の意識では、子どもは「もっと体を動かして欲しい」
  - 体を動かす場所や機会に制限
  - ゲーム・インターネット環境等、室内で過ごす時間の伸び
  - コロナ禍が追い打ち
- 子どもの運動の機会喪失はこの地域でも大きな課題

# 3. 実績

## ② 調査（抄）

### II. 子どものスポーツの実施状況

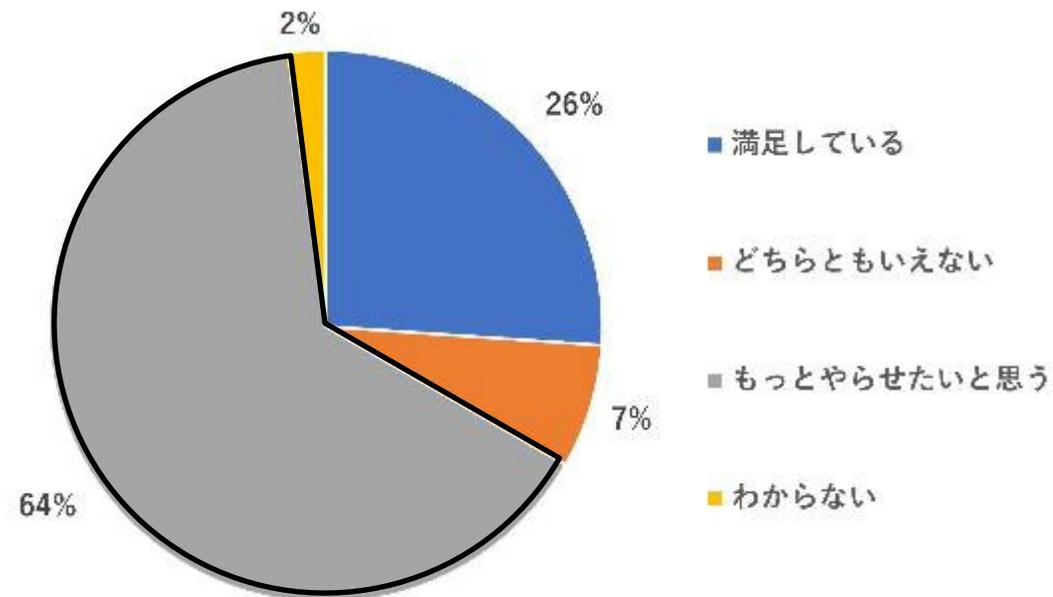
● 授業や行事を除くこの1年の子どもの実施頻度



● 週に2日以上が6割以上

- 親の意識では、子どもは「もっと体を動かして欲しい」
  - 体を動かす場所や機会に制限
  - ゲーム・インターネット環境等、室内で過ごす時間の伸び
  - コロナ禍が追い打ち
- 子どもの運動の機会喪失はこの地域でも大きな課題

● 子どもの実施頻度への満足度



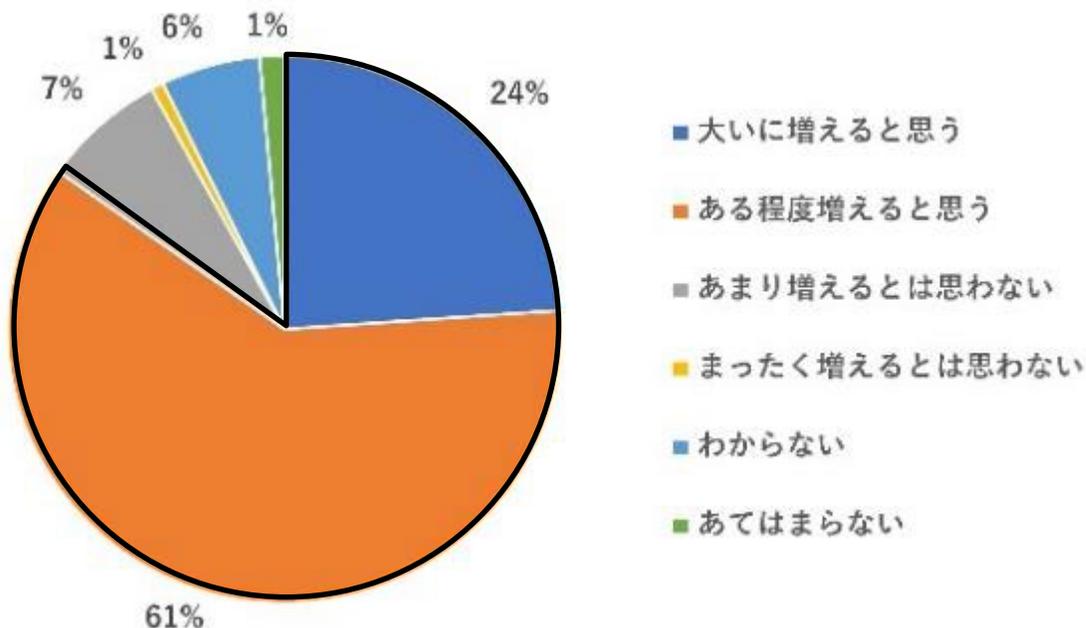
● 6割以上がもっとやらせたいと感じている

# 3. 実績

## ② 調査（抄）

### Ⅲ. 子どものスポーツ頻度向上に係る取り組み

- 地域で何らかの取り組みがあれば子どものスポーツの頻度は増えるか



- 85%が「増える」と回答

- どのような取り組みがあれば頻度が増えるか（自由記述）

放課後や休日に学校で気軽に遊び・運動・スポーツのできる環境（9）、ジュニアスポーツクラブ等（種目など）の拡充（9）、定期的に参加できる企画・教室（5）、興味をひく、ゲーム感覚、レク感覚の内容（4）、スポーツ教室（3）、小学校でのイベント（3）、自由に参加、気軽に参加できるもの（2）、地域を巻き込んでスポーツイベントの開催（1）、プロの方に各競技のコツなどを教えていただくようなイベント（1）、今回のような色々なスポーツを体験できる催し（初心者でも楽しめるもの）（4）友達と参加できる（2）親子で参加できる（1）、経済的負担が小さいもの（2）親が安心できる環境（1）

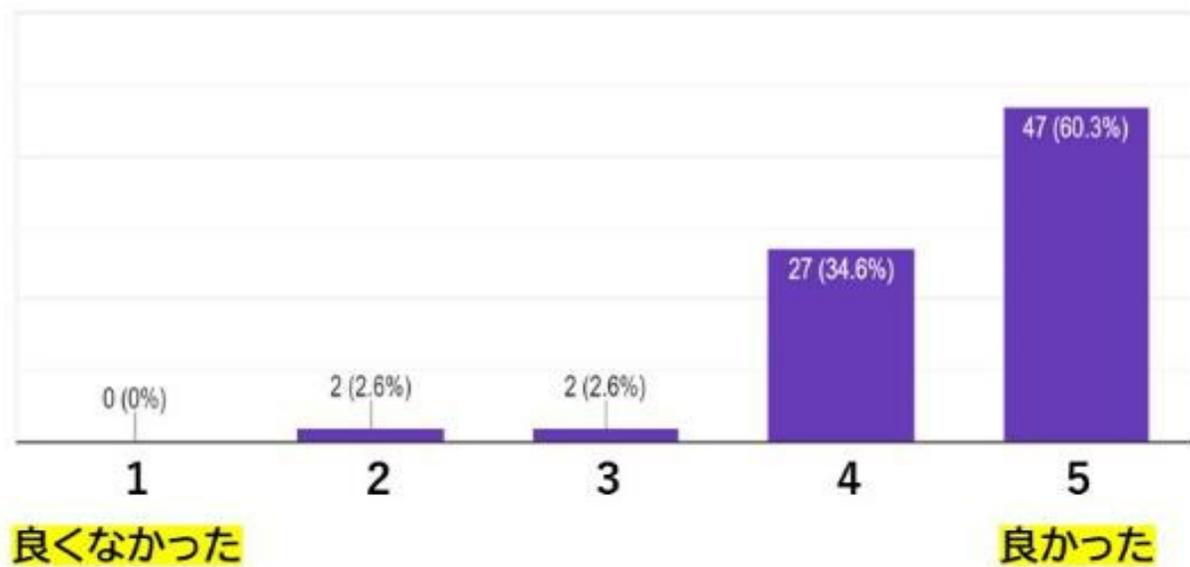
- ① 定期的に参加できるスポーツクラブ
- ② 初心者でもレク感覚で気軽に参加できる運動の機会
- ③ 親子で参加できる企画

が有効との示唆

# 3. 実績

## ② 調査（抄）

### Ⅳ. 今回のイベントの評価



前述の  
② 初心者でもレク感覚で気軽に参加できる運動の機会  
③ 親子で参加できる企画  
にはアプローチできたのでは

### 評価の主な理由 (自由記述をグループング)

- 楽しめた
- 親子で楽しめた
- 普段できないスポーツ体験ができた

- 子どもには好きなこと・色々なことを自由に気楽に体験できる
- それを親が共有・共感する（親も一緒にやってみる・やらなくても子供がやっているところを見て楽しむ）  
↓
- 子どもの「好き」を伸ばし、親の「楽しい」を同時に引き出す事業モデルとなり得る

# 3. 実績

## ③ 地域専門委員会・専門委員会

### I. 地域専門委員会

- 藤が丘学区 令和5年1月10日（火） 午後5時～7時
- 極楽学区 令和5年1月12日（木） 午後5時～7時
- 平和が丘学区 令和5年1月17日（火） 午後5時～7時
- 会場： 愛知東邦大学 H棟第一会議室
- 議題：

#### 1) アンケート調査報告と意見交換

- 幼少期のスポーツ体験の創出とスポーツに親しむ行動変容の観点から、今年度事業評価と課題について

#### 2) 次年度に向けての意見交換

- 本事業の拡大について（例：中学校を会場に、対象学区の児童・保護者へ）
- 各学区と本学との連携について

- 議事概要： 各地域ごとの振り返りを通じて、次年度以降の本事業の拡大、学区との今後の連携について、引き続き議論を行うことで合意を得た

藤が丘



極楽



平和が丘



# 3. 実績

## ③ 地域専門委員会・専門委員会

### II. 専門委員会

- 日時： 令和5年1月20日（金） 午後5時～7時
- 会場： 愛知東邦大学 H棟第一会議室
- 議題：
  - 1) アンケート調査報告と意見交換
    - 幼少期のスポーツ体験の創出とスポーツに親しむ行動変容の観点から、今年度事業評価と課題について
  - 2) 次年度に向けての意見交換
    - 本事業の拡大について
    - 「仮）部活動地域移行研究会」について
- 全体の総括を行い、次年度以降の取り組みについて意見交換を行った（内容次頁）



# 3. 実績

## ③ 地域専門委員会・専門委員会

### II. 専門委員会

#### ● 今年度総括

##### ➤ プログラム

- 誰もが参加できるプログラムが豊富
- 遊びからスポーツへのつなぎの提供
- 普段スポーツをしない子供へのきっかけ作り
- スポーツ好きの児童も参加
- コンパクトな構成
- 親子で楽しめるプログラム（働く世代のスポーツのきっかけにもなり得る）

##### ➤ 運営面

- 短期間での準備であったが、地域・学生スタッフとも、質も量も充実
- 学生にとって、地域や子どもたちとの関わりを持つ機会としても貴重

##### ➤ 継続することの意義についても、全面的に肯定的

#### ● 次年度に向けての意見交換（地域専門委員会でも出された課題を含む）

##### ➤ プログラム

- 実施規模と実現可能性の按配（種目数等）

- あるスポーツに興味を持った子どもの、その先の受け皿の検討
- モルックのようにユニバーサルスポーツとしても魅力的な種目の充実

##### ➤ 運営面

- 雨天対策やSNS告知の活用
- 地域連携の重要性
  - ✓ 学童保育、ジュニアスポーツクラブ、トワイライトといった既存の仕組みの活用
  - ✓ 小学校学区間の連携・調整・協力
  - ✓ 既存の取り組みを活用し、地域課題をスポーツで解決することでの負担増の回避

##### ➤ 中学校部活動の地域移行勉強会

- 現在愛知県・名古屋市にて検討段階であることを踏まえ、それ自体を個別の場で検討することは保留
- 本事業の継続的な展開を検討する中で、幅広く地域に開けるスポーツのあり方、それを各ステークホルダーの関わり方を検討することへ修正

## 4. 総括

- 追加採択、短期間での準備から実行であったが、参加者の皆様から高い評価を頂け、有意義と思料
  - 子どもの体力も地域の協力体制もそれ以前からの長期的な課題
  - それがコロナ禍でより深刻になっていたと推察
- 実施振り返り
  - 行動変容を促すための仕掛け
    - 告知ではとにかく楽しさと多様さをアピール
    - 会場では年齢の近い学生スタッフが子どもの相手
    - 保護者の体験も促進
    - プログラム設計の場所ごと・回を重ねるごとの改善
  - スタッフの底力
    - 地域スタッフは陽射しを避けたり参加者の実際の動きに合わせて動線を適宜変更する等、臨機応変な対応
    - 本学学生スタッフも、総じて円滑な参加者対応
  - 調査結果、特に自由記載においては、それらの努力や工夫が報われるコメント
  - 一方で人の滞留や対応の不備等のご指摘も...次年度での改善へ
- 今後の継続や拡大に関しては、アンケートや地域専門委員会・専門委員会から多様なご意見
  - プログラム...ターゲット設定
    - 高学年児童の参加を意図した競技性のあるもの
    - 体験して興味を抱いた子どもが継続して楽しめる機会の提供
    - 会場となる地域ごとにニーズが異なる可能性
  - 運営面
    - 地域スタッフの人員確保や体制作り...地域活動の基本単位が小学校学区
    - 既存の仕組みや他の地域イベントと連携しての開催等
- 今後も、行政、地域等ときめ細かい意見交換を重ね、より良いスポーツ体験の機会提供を模索・実行していきたい
- 地域に根付き、継続性を持った取り組みを通じて、長期的には「スポーツ・健康×まちづくり」の観点で、大学が求められている社会貢献・教育・研究の使命を果たせるようにしていきたい

End of File